

【テーマ】生産性の高い地域農業の確立と活力ある農村づくり

重点施策の方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし		実績		評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	
			平成19年度 (計画策定時 現状値)	平成24年度 (目標値)	平成24年度 (実績値)	平成28年度 (現状値)		
農業の担い手育成に必要な人づくり	施策1 担い手の育成・確保	①認定農業者の確保・育成	認定農家数	100	102	117	126	《○》 地域の担い手である認定農業者を増加させることができた。
		②集落営農の推進	—	—	—	—	—	《○》 二地区において、集落営農の組織化を達成できた。
		③農業経営の法人化の推進	—	—	—	—	—	《○》 三重県や三重県農林水産支援センターなどと法人設立に関する研修や相談活動などを実施し、農業法人設立に向けた支援を行った。
		④新規就農者の確保	—	—	—	—	—	《○》 JA伊勢や三重県などとともに農業研修の支援を行った。農業・農村に対する理解を深めるため、農業者や教育関係者など一体となり子供たちに対する農業体験を実施した。また、市で定めた農業経営に関する指針を基に就農しやすい環境づくりを推進した。
		⑤女性・高齢者の営農参画の推進	—	—	—	—	—	《△》 市民農園や多面的機能支払制度を活用し、高齢者の生きがい対策、地域活動の参加を促した。また、家族経営協定の締結の推進など女性農業者の経営参画を促した。ただ、シニア農業者の環境づくりは進まなかった。
	施策2 優良農地の確保と効率的利用促進	①優良農地の確保	農用地の面積	2,272ha	2,255ha	2,254ha	2,246ha	《△》 農地の集団性を確保し、優良農地の保全に努めたが、平成24年度の実績値はわずかながら、平成28年度の現状値ではさらに目標値を下回った。
		②担い手への農地の利用集積の促進	—	—	—	—	—	《○》 JA伊勢や三重県などと連携し、農地利用集積円滑化事業などを利用し、認定農業者等の担い手への農地集積・集約を行った。また、小麦は団地化を推進し、集落営農組織に対しては関係機関と連携し、法人化に向けた助言、指導を行った。
	施策3 経営安定対策の充実	①水田農業経営の安定及び発展	水稲を除く農産物作付け面積	723ha	798ha	—	—	《○》 農業者を対象に米の生産調整施策説明会の実施や需要に応じた米作りの啓発を行った。転作作物として、小麦や飼料用米等の取組みを促し、水稲の過剰作付の解消・防止を図った。 ※実績値、現状値については、計画策定時と積算する方法が異なるため、数値比較による検証が出来ない。
		②所得安定に向けた助成制度の活用	—	—	—	—	—	《○》 伊勢市水田フル活用ビジョンに基づき、JA伊勢、三重県などともに小麦や野菜(青ねぎなど)の転作作物の作付を奨励し、国の産地交付金を活用して、転作に対する助成を行った。
		③金融制度の充実	—	—	—	—	—	《○》 担い手の機械・施設等の導入や更新の際に利用した農業近代化資金、農業経営基盤強化資金の利子補給を行い、負担軽減を図った。
④営農指導対策の強化		—	—	—	—	—	《○》 いちこの生産者による糖度計やJA伊勢による金属探知機の導入を支援し、より高度な営農指導ができる条件づくりを支援した。また、県など連携し、水稲の集落営農組織化を支援し、生産者のグループ化を推進した。	

□伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】生産性の高い地域農業の確立と活力ある農村づくり

重点施策の方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし		実績		評価 （《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成）
			平成19年度 （計画策定時 現状値）	平成24年度 （目標値）	平成24年度 （実績値）	平成28年度 （現状値）	
地域条件に応じた 農業生産システムの確立	施策4 産地づくり	①野菜産地の育成	—	—	—	—	《○》 J A伊勢が推進する「伊勢やさい」について、物産展への参加や販売促進資材作成等の支援を行った。また、J A伊勢と協力して農業の適正使用の周知に努めると共に堆肥利用施設建設を支援し、堆肥利用の拡大を図った。 施設園芸や露地野菜において、複合経営の育成を進めることはできなかったが、新規就農者に対する支援を実施するとともに青ねぎではパッケージセンターを整備し、出荷体制の強化を図った。
		②特色ある花き産地の育成	—	—	—	—	《○》 J A伊勢バラ部会による農業・農村の活性化を目的として三重県が認定している地域活性化プランの作成や年2回の花き品評会の支援など生産者組織の取組強化を図った。また、既存の花き農家の経営を継承する形で新規栽培者の確保を図った。
		③果樹の高品質・生産体制の強化	—	—	—	—	《△》 蓮台寺柿の穂木育成の支援を行い、栽培面積の確保を図った。また講習会（座学、実習）を開き、栽培技術の向上を図ったが、その他の果実についてはイベントでのPRにとどまり、共同撰果・計画出荷体制等の出荷組織の整備強化までは至らなかった。
		④生産性の高い畜産の振興	—	—	—	—	《△》 J A伊勢や三重県と協力し、飼料用米の栽培推進やWCS用稲の導入によりJ A伊勢管内の飼料自給率の向上を図り、畜産経営の経営合理化に向け取り組んだ。 また、家畜糞尿の有効利用については、堆肥場整備を支援し、家畜糞尿を利用した堆肥の有効利用を図り、土地の生産性向上を図った。飼料用米の栽培により飼料の確保を図ったが、市内の畜産農家との連携までは至らなかった。
	施策5 生産・加工・流通・販売の連携推進	①生産・加工施設の改善	—	—	—	—	《○》 J A伊勢の青ねぎの育苗施設建設の支援や、定植機・マルチ張り機などによって生産システムの確立を支援した。また、いちごの生産者への光センサー糖度計の導入を支援した。
		②多様な販路の拡大	—	—	—	—	《○》 市内量販店、三重テラスなど県内外において農産物や加工品を販売、PRを行う事で伊勢市産農作物への販売拡大に努め、消費者にアンケート調査を行うなど情報を把握し、それらを生産者にフィードバックした。
		③流通の改善	—	—	—	—	《○》 米・麦について、経営所得安定対策の国の指針である減反率を目標値とし、計画的な生産を支援した。 また、J A伊勢の青ねぎパッケージセンターの整備支援や、J A伊勢トマト・いちご部会への設備支援など共販体制の整備を支援した。
		④アグリビジネスの展開	—	—	—	—	《○》 6次産業化推進事業により、加工・流通・販売に至る産業連携を推進した。
	施策6 遊休農地防止・解消対策の推進	①遊休農地の把握	—	—	—	—	《○》 農業委員会等関係機関と連携し、遊休農地の把握に努めた。
		②遊休農地の防止・解消対策	遊休農地の割合	2.6%	1.5%	4.5%	4.6%

□伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】生産性の高い地域農業の確立と活力ある農村づくり

重点施策の方針	具体的な振興施策		指標	《-》数値指標なし		実績		評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)
				平成19年度 (計画策定時 現状値)	平成24年度 (目標値)	平成24年度 (実績値)	平成28年度 (現状値)	
豊かな農村発展を支える 農業生産基盤の整備	施策7 農業生産基盤の整備 促進	①立地状況に応じた生産 基盤の整備	—	—	—	—	《○》 ほ場整備は近年行われていない。排水機場については、新規に設置したものはないが、既設に関しては適正化事業にて対応している。農業用排水路・農業用排水路の整備は順調に進んでいる。	
		②農業水利施設の整備と 農業用水の確保	農業用水の普及 率	72.00%	95.00%	99.86%	99.86%	《○》 国営宮川用水二期事業はH24年度で完了しており、平成24年度の目標値は達成している。
	施策8 農村空間の総合的な 整備促進	①農道、集落道路の整備	—	—	—	—	《○》 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業実施計画等に基づき整備しており、農業用排水路・農業用排水路の整備は順調に進んでいる。(①、②、④) 宮川用水関連工事により普及率は向上し、適切に整備されている。また、他の水利施設についても補助事業により整備支援した。(③)	
		②生活排水処理施設、排 水施設の整備	—	—	—	—		
		③水利施設の適切な整備	—	—	—	—		
		④農村の保全・防災	—	—	—	—		
	施策9 地域資源の適切な保 全	①地域資源を活かした多 彩な交流の場づくり	—	—	—	—	《○》 農業者が特産品の農業体験や料理教室など消費者を対象とした取組みを支援し、地元食材の大切さについての普及・啓発活動を行い、市民と農業との接点拡大に努めた。	
		②森林を活かしたふれあ いの場づくり	—	—	—	—	《○》 「絆の森」、「三郷山」、「音無山」等において、毎年、除草等の管理業務を委託しており、学習・交流・ふれあいの場の提供を行っている。	
		③情報化の推進	—	—	—	—	《△》 施設管理データについては、紙やデジタルにて複合的に管理しているが、全てを網羅するに至っていない状況であり、樋門や排水機場の長寿命化に対する対策として管理データの整備を進めている。	
	施策10 森林の保全と育成	①森林機能の増進と整備 促進	森林の面積	11,057ha	11,057ha	10,972ha	10,956ha	《△》 開発行為等により減少し目標値を達成できなかったが、市全体面積における森林面積の割合である森林率0.53は計画当初から維持しており大幅な減少にいたっていない。
			森林の間伐率	24.2%	25.0%	26.3%	26.9%	《○》 環境保全林及び保安林の間伐、下刈り等を計画的に実施したことにより、目標値を達成している。
		②暮らしを守る森林づく り	—	—	—	—	《○》 海岸防風林等の松林において害虫防除を毎年実施している。	
		③市民との共生の森林づく りの推進	—	—	—	—	《○》 市民が自然と親しみ、市民参加による森林づくりが主に地元が中心となり行われている。	
	施策11 農地・水・環境保全	①共同活動への支援	—	—	—	—	《△》 里地里山の保全管理は行われているが、都市市民との交流などの利用活動は不足している。	
—			—	—	—	《○》 活動組織が農村環境等の良好な保全管理、質的向上を図るための支援を行った。		

□伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】生産性の高い地域農業の確立と活力ある農村づくり

重点施策の方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし		実績		評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)
			平成19年度 (計画策定時 現状値)	平成24年度 (目標値)	平成24年度 (実績値)	平成28年度 (現状値)	
	施策11 向上対策	②営農活動への支援	—	—	—	—	《○》 地域ぐるみでの取組の質を高め、活動を促進・発展させるための支援を行った。
		施策12 都市住民との連携、 交流の促進	①グリーン・ツーリズム の推進	—	—	—	—
	②市民農園の活用促進		—	—	—	—	《○》 J A伊勢と連携し、利用者の募集および啓発の促進を図った。
	③体験学習の推進		—	—	—	—	《○》 農業体験の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性に ついて、市民の理解が深まるよう取組を行った。
安全な農産物の 安定的な生産	施策13 ブランド化に向けた 生産活動強化	①消費者のニーズの情報 提供	—	—	—	—	《△》 J A伊勢との連携によりPRを行っているが、消費者ニーズについて生産者等への 情報提供が十分ではなかった。
		②生産者の現状把握と生 産活動の拡大・促進	—	—	—	—	《○》 青ねぎの生産者に対し、伊勢市農産物ブランド化推進事業にて備品購入費の補助を 行い、生産活動の拡大を図った。
		③売れる作物生産と販売 の推進	—	—	—	—	《○》 青ねぎ、いちごの生産者に対し、出荷組織の強化、共販体制の整備により高品質、 安定生産体制の確立を図った。
		④地元農産物の市場流通	—	—	—	—	《○》 J A伊勢に対して青ねぎのパッケージセンターの整備を支援したことによって、地 元農産物の市場流通の促進を図った
	施策14 特産物の開発・ブラン ド化の促進	①ブランド化に向けた各 種制度との連携強化	—	—	—	—	《○》 「伊勢やさい」対して、販資材等を補助する事によって消費者に対する特産物の 普及・啓発を支援した。
		②特色ある農産物づくり の取組支援	—	—	—	—	《△》 いちご、青ねぎの生産者に対し、資材導入の支援を行い生産強化に努め、地域内自 給率の向上を支援したが、有機・減農薬栽培等の取組について、十分推進が行えて いない。
		③食品加工の推進	—	—	—	—	《○》 平成28年度に創設した伊勢市6次産業化支援事業にて付加価値の高い商品の製造を 支援し、地域農業の活性化に努めた。
		①地産地消の推進	地産地消の店認 定店の数の増加	17店	70店	48店	76店

□伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】生産性の高い地域農業の確立と活力ある農村づくり

重点施策の方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし		実績		評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	
			平成19年度 (計画策定時 現状値)	平成24年度 (目標値)	平成24年度 (実績値)	平成28年度 (現状値)		
農業・農村の持つ役割に対する市民の理解の促進	施策15 地産地消の推進	②直売活動の推進	農山漁村における交流活動に参加した人数	356,000人	429,000人	383,000人	409,000人	《△》 各産直施設でイベントを開催し生産者と消費者が交流できる機会を設け施設の有効活用を図った。来客数は全体で15%程伸びており増加傾向であるが、わずかに目標値に届かなかった。
		③生産者・消費者の連携体制の整備	—	—	—	—	—	《○》 農業者等と連携し市内小学校を対象に農業体験を実施した。
		④生産者・卸売市場の連携体制の整備	—	—	—	—	—	《△》 市場の状況はJ A伊勢を通じて情報交換等を行なっているが、生産者との連携体制の構築は至っていない。
	施策16 食育、スローフードの推進	①食育の推進	—	—	—	—	—	《○》 教育委員会やJ A伊勢と連携し、子供たちが学校内外で農業体験ができる場づくりを行った。
		②スローフードの推進	—	—	—	—	—	《○》 地域の伝統的な食文化や地元農産物を取り入れた取り組みに対して支援を行った。
		③学校給食等への供給体制の整備	—	—	—	—	—	《○》 市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。
	施策17 安全・安心・新鮮な食料の供給体制の確立	①消費者ニーズに対応したトレーサビリティシステムの確立	—	—	—	—	—	《△》 トレーサビリティシステムは、法律に定めがある農畜産物は確立されているものの、それ以外については推進が行えなかった。
		②J A伊勢との連携による安全・安心体制の確立	—	—	—	—	—	《○》 J A伊勢の各生産者部会の総会などにおいて、栽培指導を行う際、農業の使用基準、栽培履歴の徹底を行い、生産段階での食の安全の確保に努め、信頼のある安全・安心な農畜産物の供給体制を進めた。また、横輪いもについては、三重県の農業普及員により農業使用及び栽培履歴の記録の徹底を指導した。
		③生産現場からの情報発信の推進	—	—	—	—	—	《○》 青年農業士の主催する料理教室の開催や市内飲食店が地産地消をテーマにしたイベントの開催に協力し、地産地消の活動に住民が参加できる機会の提供を行った。
自然循環機能の維持増進	施策18 環境と調和した農業の推進	①資源循環型農業の促進	—	—	—	—	—	《○》 資源循環型農業を促進する環境整備に対して支援を行った。
		②農業用廃プラスチック等の適正処理	—	—	—	—	—	《○》 農業用廃プラスチック等の適正処理についての意識啓発に努めた。
		③農業の適正使用の徹底	—	—	—	—	—	《○》 J A伊勢、三重県の農業普及員が中心となり、農業の適正使用の普及・啓発を行った。
		④生産に際しての環境保全に関する方針	—	—	—	—	—	《○》 生産の効率化・生活の利便性を推進するための農業基盤整備は農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業実施計画等に基づき整備しており、農業用排水路・農業用排水路の整備は順調に進んでいる。